地質学雑誌　第124巻　第10号（通巻1477号）付録　平成30年10月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.21 No.10 October 2018

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」
体験の風をおこそう
この教材は、平成29年度子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）の助成金の交付を受けて、一般社団法人日本地質学会が作成したものです。

一般社団法人日本地質学会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町 2-8-15　井桁ビル
TEL：03-5823-1150　問合せ：main@geosociety.jp

※非営利目的の青少年教育活動で使用する場合にはご連絡ください。

日本地質学会 *News*

Vol.21 No.10 October 2018

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　小宮　剛
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

つくば特別大会情報……1

公募……2
兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科専任教員公募／洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会ジオパーク専門員募集／山田科学振興財団2019年度研究援助候補推薦

紹介……3
フォッサマグナ　藤岡換太郎　著（堤　之恭）

表紙紹介……3

第19回地震火山こどもサマースクール：報告……4

支部コーナー……5
関東支部：清澄フィールドキャンプ実施報告

院生コーナー……6
J-DESCコアスクール　ロギング基礎・アドバンスコース2018 参加報告（桑野太輔）

2019年度の会費払込について/災害に関連した会費の特別措置のお知らせ……8

学部学生・院生（研究生）の方へ「割引会費申請」について……9

学会記事……16
2018年度第1回理事会議事録／第2回理事会議事録／ 2017年度第10回執行理事会議事録／ 2018年度第1回執行理事会議事録／第2回執行理事会議事録／ 2018年度第3回執行理事会議事録

CALENDAR……16

つくば特別大会情報

日本地質学会第125年学術大会（2018年つくば特別大会）
［日　程］**2018年12月1日（土）～ 2日（日）**
［場　所］産業技術総合研究所 つくば本部・共用講堂
（つくば市東1-1-1）
［参加費］
・一般（会員，非会員問わず）：6,000円（注）講演要旨付き
・院生（会員，非会員問わず）：4,000円（注）講演要旨付き
・学部学生（会員，非会員問わず），名誉会員，50年会員：無料（注）講演要旨は付きません
ただし，札幌大会の事前および当日大会参加登録費をお支払い済みの方は，本特別大会での新たな費用の徴収はありません．

現在，札幌大会講演予定者だった方々に，特別大会での発表希望を確認中です（10月末期日）．プログラムは確定次第，ホームページ，メルマガ等でお知らせいたします．

2019年度各賞候補者募集中

応募締切：2018年11月30日（金）

詳しくは，ニュース誌10月号，学会HPをご参照ください．

事務局営業カレンダー

お休み

10月 October

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11月 November

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都豊島区東池袋4－41－24

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

応募

兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科専任教員公募

募集人員：教授１名

求める人材：本研究科は，理学と人文社会科学を統合することにより，地域に内在する大地・生物・社会のつながりを科学的に解明する理論を創造し，地域資源の活用による保全を実践することにより健全な地域づくりに貢献することを目的としています．本研究科は，コウノトリの野生復帰事業や山陰海岸ジオパークの普及啓発事業をすすめてきた兵庫県立コウノトリの郷公園の成果を基盤に，あらたな学問の構築・発展や教育研究の実践をめざしています．今般，地球科学（地質学，地球物理学，地理学，環境学等を含む）において十分な研究業績を有し，他分野の教員（生態学・歴史学・社会学・地域計画学）との協同のもと，本研究科の目的にそった研究，博士前期・後期課程の学生教育と研究指導，さらに研究科運営と社会貢献に，意欲と情熱を持ってあたり，新たな学問領域「地域資源マネジメント学」の発展に貢献できる人材を募集します．本研究科の教育研究では，フィールドワークを通じて，大地・生物・社会のつながりを基盤とする理論と実践を重視します．とりわけ後者については地域社会のさまざまな人びととの連携が不可欠であり，このたび公募するジオ分野では，山陰海岸ジオパークに代表される世界ジオパークの普及啓発をはじめとする地質資源の研究を行い，また地域社会との連携に強い意欲をもつ人材を求めます．なお，本研究科教員は全員，兵庫県立コウノトリの郷公園研究員を併任します．本公募では教育研究業務はもちろんのこと，大学院や兵庫県立コウノトリの郷公園の運営や社会貢献において，中心的・主導的な役割を果たすことのできる能力や経験，つよい意欲を有する人材を求めます．

専門分野：地球科学（地質学，地球物理学，地理学，環境学等を含む）

担当予定科目：地球科学概論，他分野教員と共同して行う地域システム概論，地域資源マネジメント論，及び各種の演習科目，特別ゼミナール，特別研究，その他（学部の全学共通教育科目も担当していただきます）

応募資格：①博士の学位を有する者（外国において授与されたこれに相当する学位を含む）②博士前期課程・後期課程の講義担当及び教育・研究指導が可能な者③講義などを日本語で行える者④兵庫県立コウノトリの郷公園研究員（併任）として，業務の遂行に対する意欲と能力，経験を有する者⑤山陰海岸ジオパークをはじめとする世界ジオパークに関する事業の遂行に対する意欲を有する者

応募締切：平成30年11月18日（日）【必着】

採用：平成31年4月1日（予定）

問い合わせ先：兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科

中井淳史（教授）email:koubo2018@ofc.u-hyogo.ac.jp

TEL：0796-34-6079　FAX：0796-22-5200

応募書類等その他の情報は下記サイトよりご確認下さい．

http://www.u-hyogo.ac.jp/rrm/jobs

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会ジオパーク専門員募集

1．募集職種 ジオパーク学術専門員
2．採用人数 １名
3．採用期間 平成31年4月1日～平成32年3月31日（ただし，採用期間終了後は，協議により契約を更新可）
4．勤務地 洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会事務局（北海道虻田郡洞爺湖町栄町58番地 洞爺湖町役場内）
5．雇用主：洞爺湖町
6．職務内容⑴協議会が実施する事業（保護保全，学術・普及・教育，地域資源を活用したジオツーリズム・産業振興等）⑵ユネスコ世界ジオパーク，アジア太平洋ジオパーク，日本ジオパークのネットワーク活動，ジオパークの認定に係る業務⑶洞爺湖有珠山ジオパークに関する学術調査研究⑷その他，協議会運営に必要な業務
7．勤務条件：雇用形態：正職員以外（任期付嘱託職員）
＊2年の経験の後，職務適性について評価を行い，双方の合意がなされた場合には，正職員として登用する．
＊洞爺湖有珠山ジオパークと北海道大学総合博物館との間で，平成30年度中に連携協定書の締結を予定しており，この協定により，本ジオパークの学術専門員は，北海道大学総合博物館の資料部研究員として委嘱され，必要に応じて同博物館の施設，機材，資料等を利用することができる．
8．応募資格：⑴採用時点における年齢が40歳未満の者⑵大学・大学院で地球科学（地質学，地球物理学，地理学等，地球を研究対象とした自然科学）を専攻・研究した者で，大学院修士課程修了以上の学歴を有する者，又はそれと同等の学力を有すると認められる者⑶英語でのコミュニケーションや取組発表を行える能力を有する者⑷洞爺湖有珠山ジオパーク圏域（伊達市，豊浦町，壮瞥町，洞爺湖町）に居住することができる者⑸普通自動車運転免許
9．募集期限：平成30年11月30日（必着）

応募先：洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会事務局

〒049-5692 北海道洞爺湖町栄町58洞爺湖町役場内

Tel：0142-74-3015　Fax：0142-76-4727

Mail:info@toya-usu-geopark.org

詳しくは，http://www.toya-usu-geopark.org/archives/16691

山田科学振興財団2019年度研究援助候補推薦

援助の趣旨：

1）萌芽的・独創的研究
2）新規研究グループで実施される研究
3）学際性，国際性の観点からみて優れた研究
4）国際協力研究

評価が定着して研究資金が得やすいものより，萌芽的で将来の発展が期待される基礎研究の計画を重視します．

応募資格：当該研究を独立して実施し得る者．日本の研究機関に所属する研究者であれば身分，経歴，年齢等は問いません．

援助対象：2019年9月～ 2021年3月の研究

助成金額：1件あたり100 ～ 500万円，総額3,000万円

応募締切：2019年2月22日（金）（必着）

推薦方法：学会推薦

※学会推薦（推薦件数3件）となりますので，推薦希望の方は，2019年1月21日（月）までに学会事務局まで必要書類をそろえて，お申し出下さい．

問い合わせ先

公益財団法人　山田科学振興財団

〒544-8666　大阪市生野区巽西1丁目8番1号

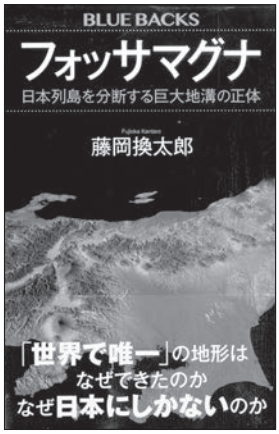
電話　(06) 6758-3745（代表）

http://www.yamadazaidan.jp

紹　介

フォッサマグナ

藤岡換太郎　著



講談社ブルーバックス，2018年8月発行，236頁，1000円＋税，ISBN978-4-06-512871-8

本書は「山」「海」「川」「石」など，これまで広範囲なテーマでシリーズを著してきた著者が，日本列島を地質学的に東西に分断する大地溝帯に挑むものである．ナウマンによる「発見」を記した序章に始まり，フォッサマグナとは何か，構成する地層，周辺の海との関係に言及したのちに，フォッサマグナ形成の試論に至る7章（序章を含めると8章）構成となっており，著者が「地質探偵」に成り代わってフォッサマグナの「謎」を解く，という体で話が展開する．

まず，第1章でフォッサマグナの地理的範囲及び南部および北部の違いといった問題が提起される．フォッサマグナの西の端は糸魚川—静岡構造線だとはっきりと示されるが，東の端ははっきりしないという「東西問題」や，南北で地質の様相や成因が全く異なるという「南北問題」が示されている．第2章では，南北フォッサマグナをそれぞれ構成する地層の違いに言及する．北部フォッサマグナを構成する地層の層序は，最下部の16 Ma頃から浅海→深海→浅海→陸生とその層相は火山活動を伴いながらが変化する．そこからは，この地域が徐々に海になり深海になったが，転じて徐々に浅くなってついには湖，そして陸になっていったことが読み取れる．一方南部フォッサマグナの地層は，17 Ma以降の火山岩類と遠洋性の泥岩からなる複数の地層の集まりであり，さらに温暖な浅海で形成された石灰岩を伴っている．このことから，南部フォッサマグナは，南方からやってきた複数の地質体の集合であることが明かされる．これらの「物証」は，「地質探偵」にとっての「謎解きの鍵」となっていく．

続く第3章では，北部フォッサマグナの地層が，日本海形成を記録する男鹿半島の地層と層序および年代が一致することから，北部フォッサマグナが日本海形成とともにつくられたと推理する．日本海形成に関しては，元々大陸にくっ付いていた“日本列島”が，（一次近似的には）西南日本が時計回り，東北日本が反時計回りの回転を伴うことで，観音開きの扉ように開いて日本海が出来たことが，古地磁気の方位およびその年代から判明している．しかし，その成因については未だはっきりとした定説はなく，沈み込みによるマントル上昇説，プルアパートベイズン説，トランスフォーム断層説，ホットリージョンマイグレーション説およびオラーコジン説が今のところ挙がっていることが紹介される．第4章では，太平洋プレートのフィリピン海プレートへの沈み込みがつくった火山列島の島々が次々と衝突することによってつくられたと推理するが，それらの事件の黒幕が地球上唯一の“海溝三重点”ではないかと，「地質探偵」の「カン」はささやくのである．そして，第5章では，三重点をキーワードにフォッサマグナ類似の構造を探索するが，逆にフォッサマグナが世界唯一の構造であることが明らかになる．

そして第6章において，いよいよ「謎解き」に入る．結論から言うと，残念ながら「証拠不十分」のため「事件の全貌」を明らかにすることは叶わなかった．しかしながら「地質探偵」は，日本海にできた“三重点（オラーコジン）”と太平洋にできた海溝三重点がフォッサマグナをつくったと，想像を交えて推理する（第7章はいわゆる「結び」にあたる）．このように，ミステリー（？）としてはいささか消化不良に終わっているものの，それはある意味当然であり，現在の知識で判明している範囲でのフォッサマグナを知る「科学読み物」としては十分満足できるものである．

日本列島の地質を語る上で，フォッサマグナは東西分断の大きな目印である．ところが，「フォッサマグナとは何なのか？」と質問をされて概略を説明できる方は，おそらく地質学に従事する日本人でも半分もいないであろう（特に中生代以前を対象とする方にとってはほぼ無関係なので）．かく言う私自身，近年諸般の事情で「勉強」を余儀なくされるまでは，フォッサマグナについてはぼんやりとした知識しかなく，詳細を知らずにいた．本書は，一般の方々や地質を学ぶ学生はもとより，これまでフォッサマグナに直接関わりのなかった地質研究者にも一読を勧めたい本である．

（**堤　之恭**）

表紙紹介

第9回惑星地球フォトコンテスト優秀賞：異様な光景

写真：**長谷　洋**（和歌山県）

【撮影場所】和歌山県東牟婁郡古座川町小川　滝の拝
【審査委員長講評】「滝の拝」とは変わった名前ですが，和歌山県古座川にある小さな滝とその周辺のポットホールが多数ある河床のことです．作者は滑らかに侵食された岩肌と水面に映った紅葉が新鮮に見えたようで，その部分のみを切り取って撮影しています．シンプルな画面構成にセンスの良さが感じられます．
【地質的背景】紀伊半島南東部には，前期中新世末から中期中新世に堆積した熊野層群が分布し，古座川の支流小川流域にはその下部層が現れます．熊野層群は，四万十付加体上の前弧海盆に堆積したものです．滝の拝付近は層理面が不明瞭な砂岩からなり，熱水変質を受けて岩石が白色化・硬化しています．このため河床は，さまざまな形のポットホールの発達した岩盤となっています．この変質帯は中期中新世の火成作用によるもので，有名な橋杭岩から北北西に伸びる珪長質火成岩脈群があります．（和歌山大学災害科学教育研究センター　後　誠介）

第19回
地震火山こどもサマースクール
報告

日本ジオパークに認定されている伊豆大島を舞台に「第19回地震火山こどもサマースクール」が8月7日に開催され，筆者は講師としてこのイベントに参加した（主催：伊豆大島ジオパーク推進委員会，大島町，大島町教育委員会，公益社団法人日本地震学会，特定非営利法人日本火山学会，一般社団法人日本地質学会）.

「地震火山こどもサマースクール」は，1995年の兵庫県南部地震をきっかけに，主に小中学生を対象として日本地震学会，日本火山学会有志で始められたイベントで，2011年からは日本地質学会も加わって毎年夏に行われている（こどもサマースクールホームページ：http://www.kodomoss.jp/）．このプロジェクトの目的については，佐藤ほか（2015）において詳しく述べられている．伊豆大島での開催は2001年の第3回地震火山・世界こどもサミット以来，17年ぶり2回目の開催である.

今回の地震火山こどもサマースクールは当初8月7日からの2日間の日程で，1日目に野外観察と実験を行い，2日目に考えたことの確認のための野外観察，そして発表会準備を行う予定だった．しかし台風13号接近のため1日に日程が短縮されたため，野外での観察，発表会準備の時間を大幅に短縮して行われた.

7日朝，参加する子どもたち33名は，大島町開発センターに集合した．開会式では，第19回地震火山こどもサマースクール実行委員長の三辻利弘大島町町長からの挨拶の後，講師長の千葉達朗氏（アジア航測）から子どもたちが解明するふたつのヒミツが提示された.

1. 大島はどんな火山で，どんな噴火が起こったか？
2. この大地でどう遊びどう暮らす？この島の誇れるところは何かな？

このふたつのヒミツを解明するため，，伊豆大島にちなむ6つの名前（サクラ，ツバキ，ツツジ，アジサイ，サクユリ，アシタバ）のグループに分かれた子どもたちは御神火スカイラインからの地形観察，大島温泉ホテル駐車場での降下テフラの観察，カルデラ内の溶岩流観察や火山観測点の見学を行った．残念ながら天候不良のため三原山やカルデラ地形を観察することはできなかったが，降下テフラから過去の噴火活動を読み取れることや溶岩流の表面形態の違い，火山観測点の説明を聞いたりして，ヒミツについて考える事ができたようだった．伊豆大島で何気なく見ていた風景を少しだけ考えて見てみると，いろいろなヒミツを解く鍵が隠れていることに気がついた子どもたちは，次は自分たちで様々なことに気付き始めることが印象的だった．カルデラ内の地震観測点近くで参加者一斉にジャンプ，その振動を地震計がとらえる事ができたことをのちに講師の森田氏（東大地震研）から聞かされ，参加者にとって地震観測を知る良い経験となったようである.

山頂口での昼食後は，筆者，森田氏，千葉氏の講義や1986年噴火ビデオ画像の視聴，岩脈貫入実験，ココアと水あめによる縄状溶岩再現実験，コーラによる噴火実験などさまざまな実験を行うことで火山について学んだ（写真1，2）．多くの子どもたちが予想と違う板状の岩脈上昇に驚き，不思議そうにしかし楽しそうに見つめていたことが印象的だった．その後伊豆大島火山博物館に移動して，グループごとに館内をまわり伊豆大島火山のヒミツを解き明かすヒントを学んだ.

最後は，参加した子どもたちによる成果発表会であるフォーラムが開催された．子どもたちは班ごとに野外観察や実験で知ることができたことを参考に，自分たちが暮らす伊豆大島について過去の噴火や恵みについてわかったことを発表した（写真3）．伊豆大島が噴火を繰り返してきたこと，時には大きな災いももたらしたこと，一方で噴火することで人々が住む土地ができること，温泉や海産物など恵みも多くあることなど思い思いの発表があった．多くの子どもたちが火山島に暮らすことの豊かさと，その一方で火山島であることの厳しさを認識し，厳しさに耐えて平和に暮らすために準備しなければならないことを考えることができたようである.

サマースクール後の感想をみると子どもたちの満足度はおおむね高く，地震火山こどもサマースクールが目指した目標は達成できたようだった．ただ台風接近というやむを得ない事情があったとは言え，短縮日程となったことで野外観察や発表に向けて子どもたちが考える時間が十分にとれなかったことは残念であった．子どもたちももう少し時間があると良かったとの感想があったようである．それでも参加した子どもたちや共同主催していただいた伊豆大島ジオパークや大島町職員の方々など，伊豆大島現地スタッフの頑張りで十分な成果を得ることができたと思う.

32年前の伊豆大島の1986年噴火はそれを眼前で経験した筆者にとっては記憶に鮮明に残っている大きな噴火イベントではあるが，参加した子どもたちにとって生まれるはるか前の出来事であり，また子どもたちの親の世代や大島町の若手職員にとってもせいぜい子ども時代のことである．次の噴火がどのような噴火になるかのはわからないが，今回のようなイベントを通じて，自分たちの暮らす地域についての過去の地学的現象や環境を考え，学び，将来の噴火について考えることができたのは大切なことではないだろうか．参加した子どもたちやその保護者，伊豆大島現地スタッフが地学現象を知り考え，伝え学ぶ機会をつなげて行くことを期待したい.

文　献

佐藤明子・松原 誠・中川和之・山田芳恵・松本翔太・平田泰之・藤間 藍，2015，地震火山こどもサマースクールの目指すもの．日本地震学会モノグラフ，4，161-168

川辺禎久（産総研地質調査総合センター）

（左から）写真1　ゼラチンを使ったマグマ貫入実験を見つめる子どもたち．写真2　霧の屋外でコーラ噴火実験．写真3　フォーラムで発表する子どもたち．短時間だったにもかかわらず素晴らしいまとめを作ってくれた．

☆関東支部

報告

清澄フィールドキャンプ　実施報告

2018年8月20日から25日にかけて，京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地質学鉱物学の先生方の御指導・御支援のもと，関東支部は清澄フィールドキャンプ（地質調査の演習；以下，清澄FCと略記）を共同実施した（参加者3名）.

清澄FCの参加者には，実施約1ヶ月前から，地質学および地質図学演習の課題が与えられる．初日の8月20日には，参加者は，京大生が東京大学千葉演習林清澄宿舎に到着する前に，歩測や走向・傾斜の計測の練習を行った．2日目以降，京大生とともに．日中は七里川およびその支流で沢歩きをし，夜はルートマップとフィールドノートへの墨入れ・柱状図の作成を行った．参加者は完成するまで寝られない．コンビニのない場所で缶詰状態になって肉体的にも頭脳的にも追い込まれることなるが，参加者にとって貴重な体験となったと思う．最終日，参加者には関東支部発行の修了証が手渡された.

台風20号の影響で，8月24日の午前中は，宿舎でのステレオ投影の演習に切り替えられたが，ほぼ予定通りの踏査をして，終了した.

清澄FCは，地質図学演習という科目を受けることができない，あるいは，できなかった学生さんに，その機会を与えるものであり，地質学の「真髄」を守る極めて重要な事業の１つと考える.

開催にあたり，京都大学の山路　敦先生，松岡廣繁先生，佐藤活志先生，TAの阿部氏，福田氏から多大なるご支援を賜った．また，関東支部側の指導者として，石油資源開発株式会社の坂田龍玄氏，株式会社ダイヤコンサルタントの吉田真理夫氏にはお世話になった．東京大学千葉演習林の方々には，いろいろとご協力をいただいた．以上の方々に厚く御礼申し上げる.

（関東支部幹事　**加藤 潔**　駒澤大学）

参加者の感想

私は地質調査の方法や技術を学ぶために，清澄フィールドキャンプに参加しました．1つの露頭で長い時間をかけて観察し，フィールドノートに丁寧に細かく柱状図を描くということは，今まで行ったことのない作業でした.

実習中はフィールドでも夜の屋内作業でも，京都大学の学生の方々についていくだけで精いっぱいでした．しかし，日が経つにつれて露頭の記載の内容や方法，柱状図の書き方も身につき，最終的には京都大学の学生の方々に遅れることなく課題を進めることができました.

今回のフィールドキャンプでは，フィールド調査の技術や柱状図の書き方のほか，ヤマビルに耐える強い精神力も身につけることができました．何カ所もヤマビルに血を吸われてしまいましたが，それを気にすることなく調査に集中して取り組みました.

体力的にも精神的にも辛い6日間の実習でしたが，とても充実したものになりました．この経験を活かしてさらに地質に関する勉強を重ね，これからの研究に取り組んでいきたいと思います.

（専修大学3年　**木村恵樹**）

私は，授業ではできない地質の勉強をするよい機会であると思い，今回の清澄フィールドキャンプに参加させていただきました.

フィールドでは，京都大学の生徒との経験の差を実感させられ，ついていくのに苦労しました．また，慣れない室内作業に苦戦し，前日の作業から進め，また次の日という繰り返しで，1日がとても長く大変でした．けれど，フィールドで地形や地層を見るときに，何に注意しているのか，どういう見方をするのか，といったフィールドを調査する方法を，とても丁寧に指導してくださり，例えば，走向と傾斜をただ機械的に測るのではなく，前の地点と何か異なっていないかなど，様々な作業やデータの一つ一つに意味があることを学ぶことができました.

今回参加させていただいたことで，基本的な調査の仕方や地質について，大変勉強になり，新たに興味関心を持つこともできました．ここで得た知識を，今後の調査に活かしていきたいとおもいます.

（専修大学3年　**大村レイ**）

私は幼少より地球科学に強く興味を惹かれており，来年度には地球科学の知識を駆使して資源を探り当てる探鉱技術者としての就職が決まっております．しかし，地学系学科の出身ではないことに加え，大学院では主に海底資源を研究対象としていたことから，陸上における地質調査をほとんど経験したことがないという状況にありました．そのような折にこのカリキュラムの存在を知り，就職に先立って地質調査の基礎を実践的に学ぶことができる良い機会であると考え，この度のフィールドキャンプに参加させていただきました.

堆積岩や地質構造に関しては知識としては学んだことがあったものの，現場で実物を同定するのは今回が初めての経験でした．そのため，はじめのうちは砂岩と泥岩の区別もつかず，走向傾斜も機械的に計測を繰り返しているような状態でした．しかし，幾度となく露頭の観察や走向傾斜の計測を重ねた結果，ついには岩相の判別や構造の把握を自力で行えるまでに至りました．また，地質作用の産物である堆積岩やその構造を自らの目で観察したことで，今までは教科書上の知識のみで漠然と捉えていた地質現象をより具体的にイメージできるようになり，「経験が知識を洗練する」ということを改めて実感させられた六日間でした.

沢にはヤマビルが非常に多く，ヒル除けの手放せない大変な調査ではありましたが，おおよそ天候にも恵まれ無事にカリキュラムを修了することができました．ご指導を賜りました京都大学および地質学会の先生方には，この場をお借りしてお礼申し上げます．誠にありがとうございました．就職した暁には是非とも今回の経験を活かして探鉱の業務に励みたいと思います.

（東京大学博士1年　**下村　遼**）

（左）フィールドにて．
（右）清澄宿舎にて．左から，下村，木村，大村，加藤，吉田，坂田．

J-DESCコアスクール ロギング基礎・アドバンスコース2018 参加報告

桑野　太輔（博士前期課程１年）
千葉大学融合理工学府地球環境科学専攻地球科学コース

はじめに

「J-DESCコアスクール ロギング基礎・アドバンスコース2018」は日本地球掘削科学コンソーシアムが主催となり，産業総合技術研究所の共催，および海洋研究開発機構の協力により，2018年7月18日から20日の3日間，海洋研究開発機構横浜研究所で開催された．本スクールの目的は，物理検層で用いる計測機器や，それらを用いた計測手法についての基礎的な内容を学び，検層によって得られたロギングデータの解釈方法を習得することである．

また，今年度は初の試みとして，基礎コースに引き続きアドバンスコースが開催された．このアドバンスコースでは，2018年10月から実施されるIODP Exp.358 NanTroSEIZE Deep Riser Drillingにおいて役立つような実用的な技能の取得を目指して，実際の研究航海を想定した演習課題に取り組んだ．私は現在，博士前期課程の研究として，房総半島の陸上セクションを用いた石灰質ナノ化石層序と石灰質ナノ化石に基づく古海洋学的研究を行っており，今後，発展的な研究を行うためにコア試料を使用することが考えられる．その際，国際深海掘削の研究航海で得られた様々なデータも併せて考察に用いる可能性があることから，そのひとつである物理検層を理解する必要があると考え，本スクールに参加した．

ロギング基礎コース

7月18日（1日目）

初日は，参加者の自己紹介を行ったのち，物理検層の基礎を学び，ロギングデータの基礎的な解釈を行った．本スクールには学部学生，大学院生，および研究者のほか，掘削会社の技術者の方も参加した．

午前中の講義では，IODPの概要を含め，海洋での掘削方法に関する基礎的事項を学んだ上で，通常，行われる物理検層の種目と坑内検層ツール，そして各種の測定方法の原理について学んだ（写真1）．物理検層の最大のメリットは連続的，かつ地下の原位置における物性データを得ることができる点にある．一般に，得られる物性データは，地層の比抵抗や自然ガンマ線など多様であり，いずれも層位学的に高い分解能を持ち，コア試料や反射法地震探査だけでは得られない情報を得ることが可能である．また，本コースでは検層の手法として，ワイヤーライン検層と掘削同時検層（LWD：Logging While Drilling）について学んだ．ワイヤーライン検層は，掘削後の坑内に検層ツールを降下・上昇させて坑内の測定を行う検層である．これに対してLWDは，掘削する際にドリルビットの直上に検層ツールを内蔵し，それによって掘削時に測定を行う方法である．LWDは地球深部掘削船「ちきゅう」においても用いられている技術であり，2007年から実施されているNanTroSEIZEで実際に利用されている．

午後からは，ロギングデータの基礎的な解釈方法に関する講義が行われた．各種ロギングデータにはベースラインやトレンドの違いが見られるため，これらのデータの違いによって区分されたロギングユニットを認定することが可能である．一般に，

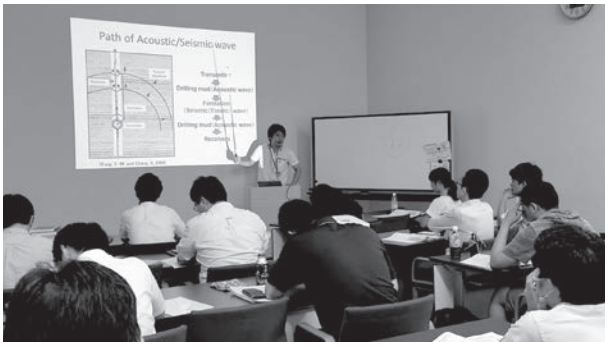


写真1　物理検層に関する基礎的なレクチャー

ロギングデータの違いは，坑井周辺の地層の物性の違いに対応しており，それに基づいて岩相を解釈することが可能である．また，孔壁の比抵抗画像を解析することで，任意の深度における地層の層理面や断層などのストラクチャーの走向・傾斜を得ることが可能であり，地質構造について解釈することができる．そして，これらのデータに加えて，コア試料やカッティングス，反射法地震探査のデータを複合させることで，地下地質をより詳細に推定することができる．また，ある程度データが蓄積されれば，ロギングデータのみで，コア試料を取得していない，あるいはコア試料の回収率が低い坑井であっても，岩相や地質構造が推定することができるという点において，物理検層は重要な役割を担っている．

初日の最後には基礎コースの演習として，NanTroSEIZEで掘削されたHole C0002Aのロギングデータを用い，受講者が3～4名ほどの4つの班に分かれて，岩相の解釈を行った（写真2）．当初，私は初めてロギングデータを取り扱ったため，ベースラインのシフトやトレンドの違いになかなか気づくことができず苦戦した．しかしながら，最終的には少しずつ違いを捉えることができるようになり，私達の班が認定したユニット区分は，IODP Exp.314の乗船研究者による結果とほぼ同様であった．Hole 0002Aにおいては，実際にコア試料が得られており，それと比較してもロギングデータから得られたユニット区分やその岩相には大きな相違がないことから，ロギングデータの有用性について改めて実感した．

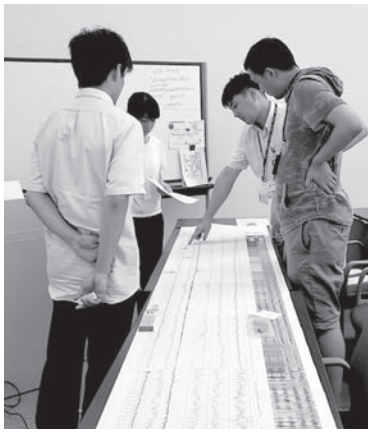
ロギングアドバンスコース

7月19日（2日目）

2日目からはアドバンスコースが開催され，前日，解釈を行ったHole C0002Aに，Holes C0002F，G，N，Pのデータを加え，合計5つの掘削孔を用い海底面下約3,000 mまでのロギングユニット区分やそれらの地質学的な解釈を各々の班でまとめ，発表を行った．

まず，前日と同様に各種ロギングデータを用いてロギングユニットを認定し，各々のユニットについて岩相の解釈を行った．主に付加体にあたるHoles C0002F，G，N，Pで行われた検層は，ガンマ線検層，比抵抗検層，音波検層の3種目のみであったため，これらの3種目のデータの変化に基づいてロギングユニットの認定を行った．付加体中のロギングデータの変化は明瞭なものばかりではなく，わずかなベースラインのシフトやトレンドの変化が数多く見られ，ユニット区分には苦労したものの，各々の班においてロギングデータの特徴について前日よりも詳細に記載を行うことができた．

午後からは，より詳細に地下地質を推定するため，コア試料またはカッティングスから得られた含泥率や鉱物組成，孔隙率，密度のデータ，反射法地震探査のデータ，および坑内比抵抗画



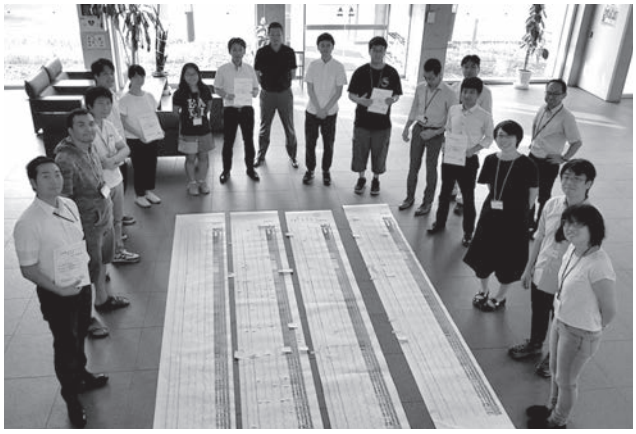


写真2（左） C0002 HoleAにおけるロギングデータの解釈
写真3（右） 演習で解釈したロギングデータを囲んでの集合写真

像から得られた層理面および断層などのフラクチャーの走向・傾斜とロギングデータの比較を行った．これらの比較は実際の船上でも行われており，各種のデータを総合的に考察することによって，地下の地層を詳しく理解することを目指している．例えば，前弧海盆堆積物と付加体の境界付近に相当するロギングユニットの境界では，ロギングデータと反射法地震探査断面，坑内比抵抗画像のすべてにおいて明瞭な変化が認められた．一方，自然ガンマ線，比抵抗，音波速度のすべてが急激に変化していて，岩相の変化が示唆されるサブユニット境界であっても，カッティングスでは明瞭な違いが見られない場合もある．このように，物理検層，コア試料やカッティングス，そして反射法地震探査，それぞれのデータは手法やスケールが異なるため，必ずしも整合的であるとは限らないものの，複合して用いることでそれぞれの欠点を補うことが可能である．

7月20日（3日目）

一般に，すべての研究航海で，数多くの物理検層種目をすべて行うとは限らないため，既存の実測値をもとに孔隙率や密度を推定する必要もある．そのような手法の代表例がアーチーの式を用いた解析である．そこで最終日には，アーチーの式を用いて孔隙率や密度を推定する演習を行った．アーチーの式とは実際に測定された比抵抗のデータを用いることで，間接的に孔隙率を算出する経験式である．この演習では，Hole C0002Aの比抵抗のデータを用いて孔隙率を計算で導き出し，さらにその値を用いて密度の推定を行った．Hole C0002Aでは実際に孔隙率と密度が検層種目として測定されているため，その値とアーチーの式で算定した値とを比較したところ，実測値とほとんど差がない部分もあれば，顕著な差が認められる部分もあった．後者の理由のひとつとして，アーチーの式で用いる定数は岩相により異なるため，その深度における定数が適切な値ではなかった可能性が考えられる．この演習後には，Exp.358のロギングプランに関するお話を海洋研究開発機構の真田佳典博士よりいただき，各班で今後得られるデータを用いて，どのような研究を行うことが可能かを議論した．

午後からは，本スクールのまとめとして，各々の班でC0002のロギングユニットの区分，およびそれらの地質学的な解釈についてをプレゼンテーションによる発表を行った．それぞれの班におけるロギングユニットの大きな区分はおおむね同じであったが，サブユニットやサブゾーンの認定については班によって見解の相違があった．岩相や地質構造の推定についても解釈は共通していたが，より詳細な変動から褶曲を認定している班や，地下構造を図で示している班などがあり，各班ともに独自性に富んだ発表であった．また，各々の班でExp.358のデータを用いた新たな研究テーマについても発表を行ったが，各々の専門分野を生かしたさまざまなアイデアが生まれており，今後の航海で実際に生かせるのではないかと感じた．最後に，海洋研究開発機構の濱田洋平博士より講評をいただくとともに，実際の航海で区分されたロギングユニット，および推定された岩相や地質構造との比較を行い，この実習は幕を閉じた．

まとめ

今回のコアスクールを通して，物理検層の基本的事項，ロギングデータの見方や，それを用いた岩相や地質構造の解釈についてなど他では学ぶことができないことを系統的に学ばせていただいたことは非常に貴重な経験となった．ロギングデータを用いることで，地層の物性だけでなく，岩相や地質学的な構造を推定するプロセスを学んだことは，私がこのコアスクールに参加して得られた大きな成果であった．また，普段触れ合うことのない専門分野の違う方や講師の先生方と議論を交わすことができたという点も非常に良い経験であり，今後も異分野の方々と積極的に議論をしていきたいと感じた（写真3）．私はIODP Exp.358 NantroSEIZE Deep Riser Drillingには参加しないものの，実際に乗船する方々と一緒にこのようなコアスクールを受講できたことを非常に嬉しく思う．また，自身の研究でコア試料を用いる際には，今回学んだことを生かしていきたいと考えている．

謝辞

今回，この「J-DESCコアスクール ロギング基礎・アドバンスコース2018」の開催してくださった世話人である海洋研究開発機構の濱田洋平博士，そして真田佳典博士，斎藤実篤博士をはじめとする講師の先生方には，充実した講義，および演習をご準備いただき，非常に貴重な経験をさせていただいた．また，J-DESCをはじめとする本スクールを企画してくださった関係各所の方々には，開催にあたってご尽力いただいた．以上の方々に厚く御礼申し上げます．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名で行っています．原稿は5000字以内，図・写真３点以内を目安に，e- mailでいただければ幸いです．

16nd204l@vc.ibaraki.ac.jp　羽田裕貴（茨城大）
manto.yamada@gmail.com　山田眞嵩（北大）
smuto@eps.s.u-tokyo.ac.jp　武藤　俊（東京大）
716o.nonn@gmail.com　大山　望（九州大）

2019 年度の会費払込について

一般社団法人日本地質学会運営規則により，次年分の会費を前納下さいますようお願いいたします．2019 年 4 月～ 2020 年 3 月の会費額は下記の通りです．

会員資格	2019 年 4 月～ 2020 年 3 月分会費
正会員	12,000 円
〃 （院生割引）※　要申請	8,000 円
〃 （学部学生割引）※　要申請	5,000 円

※学部に在籍している学生の方，定収のない大学院生（研究生）の方で，それぞれ所定の書式で申請をされた方にのみ割引会費を適用します．なお，2018 年度までの学部学生割引・院生割引会費についての申請は終了しておりますので，2019 年度会費にのみ適用となります．

1．自動引落を登録されている方の 引き落とし日は 12 月 25 日（火）です．

2019 年度分会費の引き落とし日は 12 月 25 日です．請求書ならびに引き落とし通知の発行は省略させていただきますのでご了承下さい．これより以前に不足額がある場合には加算され，余剰金がある場合はその分を減額して引き落としとなります．通帳には金額とともに「チシツカイヒ」あるいは「フリカエ」，「SMBC」などと表示されますので，必ずご確認下さい．

2．自動引き落としをご利用下さい．

新たに会費の引き落としをご希望の方は，巻末の振替依頼書を 11 月 13 日（火）までに事務局までお送り下さい．また，すでに引き落とし手続きが完了している方で，学部学生割引と院生割引会費の適用を希望される学部生，院生（研究生）の方は 11 月 20 日（火）までに学部学生割引会費・院生割引会費申請書をご提出下さい．期日までにご提出いただけない場合は，正会員の会費で引き落としがかかります．ご了解下さい．

3．上記以外の方（お振り込み）

12 月中旬頃までに請求書兼郵便振替用紙をお送りいたします．折り返しご送金くださいますようお願いいたします．

一般社団法人日本地質学会　会計委員会

一般社団法人日本地質学会運営規則

第２章　第７条（会　費）

学会は会費の年額（４月１日～翌年３月末日）を次のように定め，会員は当該年度の初日までにこれを支払うこととする．入会の際には当該年度の年額を支払うこととする．

(1) 正会員：12,000 円
ただし，大学学部ならびに大学院に在籍するものは，毎年度ごとに所定の申請書を提出した場合，それぞれ学部学生割引と院生割引を適用し，年会費を 5,000 円ならびに 8,000 円とする．これらに準じる身分の学生についても同様の扱いとする．

(2) 賛助会員：１口 25,000 円，２口以上
ただし，諸般の事情により理事会が認める場合は，１口とすることができる．

2　会費の変更は，理事会の議決により，総会の承認を得なければならない．

3　会員は，上記に定める会費を当該会計年度の前に一括納入しなければならない．ただし，やむを得ぬ理由により理事会が認める場合は，分納もしくは減免することができる．

4　会費を滞納した会員については次の処置をとる．

(1) 滞納期間が６ヶ月以上となった場合には，地質学雑誌等の会誌の送付を停止する．

(2) 滞納会費が納入された場合には，送付を停止した地質学雑誌等の会誌の送付を再開する．ただし，会誌の在庫の関係で送付ができないことがある．

(3) 地質学雑誌への投稿，講演会での講演を制限することがある．

(4) 会費支払いの督促を受けつつ，正当な理由なく，かつ，退会届を提出せぬままに会費を滞納した会員は，滞納４年度目をもって，理事会の議決により会員の資格を喪失させ除籍とする．

災害に関連した会費の特別措置のお知らせ

日本地質学会では，災害救助法適用地域で被災された会員の方々のご窮状をふまえ，申請により会費を免除いたします．「日本地質学会に届出の住居または勤務地が災害救助法適用地域に該当する会員のうち，希望する方」は2018年度もしくは2019年度会費を免除いたします．

適用を希望される会員は，1. 会員氏名，2. 被災地，3. 被災状況（簡潔に）を添えて学会事務局にお申し出下さい（郵送，FAX，e-mail、電話のいずれでも可）．

申請締切：2018年11月30日（金）（※次年度会費請求の都合により）

学部学生・院生（研究生）の方へ「割引会費申請」について

2019年度（2019．4～2020．3）学部学生割引・院生割引会費の受付開始

一般社団法人日本地質学会運営規則により，学部学生・院生（研究生）については，本人の申請によりそれぞれ割引会費が適用されます．つきましては，次年度（2019年度）の会費についての申請受付を開始いたしますので，該当される会員は下記の書式にて申請書を提出してください（郵送に限る）．**会費請求書発行の都合もありますので，請求書発行前の受付〆切りは11月20日（火）といたします．とくに口座自動引落で会費を納入されている方は，この期日までに申請書をご提出下さい．なお，これまで（～2018年度）の学部学生割引・院生割引会費についての申請受付は終了していますので，2019年度分の申請のみ適用となります．**

★注意★
毎年更新となりますので，次年度会費について該当する方は，必ず申請してください．
2019年度から社会人になるかたは，割引会費の申請はできません．

送付先：〒101-0032　東京都千代田区岩本町2－8－15　井桁ビル6階
一般社団法人日本地質学会

2019年度一般社団法人日本地質学会
学部学生割引・院生割引会費申請書

一般社団法人日本地質学会　御中

私は，運営規則第2章第7条第1項（1）に基づき，2019年度会費の

学部学生割引　・　院生割引　（いずれかに○）

を申請いたします．

申請日　　年　　月　　日

会員番号：

会員氏名：

現在の所属・学年：

大学	学部　　学科	年在学中
大学大学院	研究科 専攻	前期　・　後期 年在学中

2019年４月からの所属：（現在の所属と同じ場合には「同上」でも可）

大学・大学院名	学部学科・研究科専攻名

上記，本学の学生につき，学部生・定収のない院生（研究生）であることを証明いたします．

指導教員（等）
所属：
氏名：　　印

請求書発行前受付〆切
2018年11月20日（火）

学　会　記　事

一般社団法人日本地質学会の議事録を掲載しています.

2018年度第1回理事会議事録

日時：2018年5月19日（土）　15:30～16:50
会場：北とぴあ　第2研修室（東京都北区王子1-11-1）
出席役員：理事（37名）：天野一男　安藤寿男　磯崎行雄　緒方信一　岡田　誠　折橋裕二　笠間友博　狩野彰宏　神谷奈々　亀尾浩司　川端清司　北村有迅　小宮　剛　斎藤　眞　坂口有人　佐々木和彦　菖蒲幸男　菅沼悠介　杉田律子　高嶋　洋　竹下 徹　田村芳彦　田村嘉之　辻森 樹　中澤 努　西　弘嗣　早坂康隆　平田大二　廣木義久　福冨幹男　星 博幸　保柳康一　松田博貴 道林克禎　矢島道子　山口耕生 山路　敦
監事（2名）：藤本光一郎　山本正司
欠席役員：理事（13名）：石橋 隆　井龍康文　岩井雅夫　ウォリス サイモン　大藤　茂　亀田　純　小松原純子　沢田　健　竹内　誠　奈良正和　楡井　久　三田村宗樹　山崎晴雄
＊成立要件：理事総数50名の過半数26名　本日の出席者37名で本理事会は成立.
＊議決：出席者の過半数　19名
＊開催にあたって
1）出席理事及び監事自己紹介
2）書記2名の指名　北村理事・坂口理事

審議事項

1．理事会議長・副議長の選出
議長に狩野彰宏理事，副議長に杉田律子理事が選出された.
2．会長＝代表理事，副会長の選出
会員による意向投票を鑑みて，下記の会長及び副会長が選出された.
会長＝代表理事：松田博貴　副会長：佐々木和彦・平田大二
3．執行理事の選出，部会長の選出
執行理事および部会担当については立候補時の本人の希望を考慮し，会長より下記の提案があり，提案通り選出を了承した．アンダーラインは部会長.
常務理事：斎藤　眞，副常務理事：安藤寿男
運営財政部会：緒方信一・西　弘嗣
広報部会：坂口有人・小宮　剛
学術研究部会：磯崎行雄，ウォリス　サイモン・岡田　誠・辻森　樹
編集出版部会：大藤　茂・田村芳彦
社会貢献部会：星　博幸・廣木義久・中澤努
4．業務委員会の確認
各部会付きとは別に，理事会の下に下記の委員会があることを確認した.
理事会規則14条1項設置：支部長連絡会議・地質災害委員会・名誉会員推薦委員会・各賞選考委員会・男女共同参画委員会・ジオパーク支援委員会
理事会規則14条2項設置：法務委員会,地学オリンピック支援委員会,連携事業委員会,地質用語国際標準対応委員会
5．各賞選考委員会委員の選出
専門バランスを考慮して以下の10名を選出した．任期は2年，委員長は1年交代も可.
層序系：保柳康一，亀尾浩司，小松原純子，竹内　誠（武藤鉄二，伊藤　慎）
岩鉱系：道林克禎，折橋裕二，山口耕生（田村芳彦，海野　進）
構造系：（山路　敦，大藤　茂）
博物館：笠間友博，川端清司
民間企業：菖蒲幸男
○役職指定委員：前・現の地質学雑誌・アイランドアーク編集長および副編集長
山路　敦，大藤　茂，田村芳彦，武藤鉄二　伊藤　慎，海野 進
専門で分けた場合，上記（　）のように当てはまる.
＊この後，委員の互選により委員長は竹内理事を選出し，本人の了承を得た.
6．京都大学防災研究所の国際共同利用・共同研究拠点認定の推薦に関する要望書提出の件：審議の上，正式な要請書が届き次第，推薦することとした．ただし，このような案件は本来執行理事会が処理すべき内容であるが，次回執行理事会の開催タイミングも考慮し，今回は理事会で判断することとした.
7．その他
チバニアンの国際標準模試地の審査経緯に関して，学会としての立ち位置を確認したい旨，山口理事より意見があった．学会としては科学的な事実認定を尊重する立場であり，今後は会長が中心となって対応することを確認した.

以上この議事録が正確であることを証するため，議長及び副議長出席監事，理事は次に記名捺印する.

2018年5月19日
理事：議長　狩野彰宏
理事：副議長　杉田律子
代表理事：会長　松田博貴
（以下，理事名省略）

2018年度第2回理事会議事録

日時：2018年9月4日（火）15:00～17:15
会場：かでる2.7　730研修室（札幌市中央区北2条西7丁目）
出席役員：理事（34名）：天野一男　安藤寿男　石橋　隆　磯崎行雄　岩井雅夫　ウォリス サイモン　大藤　茂　緒方信一　岡田　誠　折橋裕二　狩野彰宏　神谷奈々　亀尾浩司　亀田　純　川端清司　小宮 剛　斎藤　眞　坂口有人　佐々木和彦　沢田 健　菅沼悠介　杉田律子　高嶋 洋　竹内　誠　田村嘉之　辻森 樹　中澤　努　楡井　久（1時間遅刻）　早坂康隆　平田大二　廣木義久　保柳康一　松田博貴　矢島道子
監事（1名）：藤本光一郎
欠席役員：理事（16名）：井龍康文　笠間友博　北村有迅　小松原純子　菖蒲幸男　竹下　徹　田村芳彦　奈良正和　西　弘嗣　福冨幹男　星　博幸　三田村宗樹　道林克禎　山口耕生　山路　敦　山崎晴雄
監事（1名）：山本正司
成立要件：理事総数50名の過半数26名　本日の出席者　34名で本理事会は成立
議決：出席者の過半数　18名
開催にあたって書記名の指名：田村理事，竹内理事

報告事項

1．執行理事会報告（斉藤常務理事）
・2018年度第1回～第3回執行理事会議事録から抜粋して，報告があった.
・会員動向：3685名（9月現在），5月以降の逝去者5名に対し，黙祷にて冥福を祈った.
・松田会長より，チバニアンの国際標準模式地の審査経緯と審査の妥当性についての声明を，News誌及びHP上に公表したことが報告された.
2．理事及び委員会等報告
1）行事委員会（岡田理事）
・台風21号による荒天時の開催の是非は，緊急時対応に基づいて決定する．開催が中止となった場合，学生に対しては昨年の例に基づいて対応する.
・巡検のレンタカー使用について：緊急時対応用のレンタカーの使用を認めた．案内者には使用について誓約書を提出してもらう.
・2019年山口大会の日程：9/23-25（大会），26より巡検．巡検は8コース（全日帰り）
2）地質学雑誌編集委員会（大藤理事）
・これまでの投稿状況の報告があった.
・125周年記念号は8タイトル出版済み，残りは2019年3月までに出版の予定.
・地質学雑誌編集委員交代の報告があり，理事会はこれを承認した.
3）アイランドアーク編集委員会（田村理事，安藤理事代理報告）
・編集状況の資料をもとに報告された.
・Wileyの５つのプロモーション活動について報告があった．投稿から出版までに時間がかかることに対し，専任の編集者を雇うことは現実的でなく，サポート要員のための資金として学会から年間20万円を限度に支出することが報告された.
4）広報委員会（坂口理事）
学術大会のプレスリリースを道政記者クラブにて行ったが，参加は1社のみであった.
5）125周年記念事業実行委員会（矢島理事）
・記念式典について，報告された．同記事が

ニュース誌8月号に掲載された.
・記念出版物は進んでいるが，出版時期が未定のものもある.
・学術交流協定締結各国から招待講演者を得て，学術大会で開催される記念シンポジウムの趣旨説明と参加要請があった.

審議事項

1．地質学会各種委員会の再編・統合について

松田会長より，現況の学会運営にあわせた体制の再検討をしたいとの意向が示された．続けて，佐々木副会長より，12月理事会に体制の再編案を提示し，2019年4月理事会で審議，5月の総会までに決定したいとのスケジュールが示された.

関連して，天野理事より，ジオパーク支援委員会にはJGCとJGN関係の委員2名がいた方が良いとのコメントがあった．松田会長より各委員会の経緯に関する情報提供のお願いがあった．本件は，提案の方向で進めることが承認された.

2．地質学会主導の大型研究マスタープランについて

小宮理事より，日本学術会議のマスタープランの経緯について以下の説明があった．今回は2020年に向けての第4回マスタープランの提言をおこなった．重点研究に採択されれば，総額数十億円から150億くらいのプロジェクトになる．①大型施設（コミュニティ）を作り，②大型研究を進めるなど，学問全体に貢献できるようなテーマとして地質試料をアーカイブ化し，共用できるような施設を提案する．申請資格者は学会，大学のトップ，日本学術会議のメンバーである．2018年3月にヒアリング．今後のスケジュールは2018年11月頃応募要領，2019年2月公募開始，2020年2月頃選考結果発表である．日本学術会議が採択・提言したとしても，プロジェクト実施の可否は国が決定する.

これに対し，国の価値観も踏まえて考えるべきではないか，JAMSTECや国立科学博物館が持つ地質試料アーカイブとの関係はどのように考えているのか，既存の施設に集約・運営してもらうとよい，最先端のテーマでなくともよいのか等の活発な意見があった.

小宮理事は，現状での学術的成果の重要性を訴え，将来の地質学の成果のために試料の集約を目指す必要であるとの見解を示した.

松田会長から，大型研究マスタープランに関する学術大会の夜間小集会や今後の理事会などを通じて会員の意見を広く求めて，公募スケジュールに迅速に対応できるように準備すべきとの所存が示された.

3．ジオルジュの発行について（坂口理事）

昨年度の理事会での経費削減の要請に対して，新設した企画協賛ページの収入によって目標の削減額がほぼ達成された．今後は，記事単位に広告をつけてPDFで販売することを試行する．ジュンク堂博多店などで配布したフリーペーパーも好評で他の書店からの引き合いもあり，地質学の普及のためにも本年度以降の出版を承認していただきたい，との提案が坂口理事よりあった.

これに対し，読者にフィードバックできる企画新設，と博物館友の会での取扱拡充や，年２回の発行頻度を増やす，坂口理事の業務負担を補填すべきなどの活発な意見があった.

ジオルジュ発行に対しては肯定的な意見が多く，今後も経費削減の努力することで，年2回の出版を承認した.

4．その他

神谷理事（大学院生）より，特に女子学生用に宿泊施設のシェアできるような方策を作ってもらえないかとの提案があった.

これに対し，HPで学生が交流できるページを作ると意見交換ができるのではないか．などの意見があり，行事委員会で前向きに検討することになった.

2018年１0月26日
理事：議長　狩野彰宏
理事：副議長　杉田律子
代表理事：会長　松田博貴

2017年度第10回 執行理事会議事録

期日：2018年5月19日（土）　9:00～10：45
場所：北とぴあ　第2研修室（7階）
出席者：渡部会長　松田副会長　齋藤常務理事　安藤　緒方　岡田　小宮　坂口（10:30着）　杉田　田村　辻森　内藤　中澤　西　平田　廣木　（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：山田
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者15名，委任状0名，合計15+1名の出席.
＊前回議事録の承認

Ⅰ　審議事項

1．地質学雑誌のあり方についてのアンケート最終案について（タスクフォース委員会）

一部文案修正の上，実施する．ニュース誌，Website，geo-flashで並行実施する.

2．年会参加者と参加費の仕分けについて（西理事）

提案通り承認した．要点は以下のとおり.

巡検参加のみの会員，非会員からは年会参加登録費の徴収はしない，巡検参加費の会員，非会員の区別はしないが参加の優先は会員とする．また，関連団体への巡検協賛依頼をしないこととし，これによって年会参加登録費の優遇もしない．ただし，関連団体には年会，巡検の広報活動は行う.

3．事務局体制について（安藤理事）

資料に基づいて検討し，一部文案を修正して方針を承認.

4．防災学術連携体の行事への参画（斎藤理事）

・「防災推進国民大会2018」10/13-14　東京ビッグサイトにブース（無料）を出展する.
・6/5開催の防災減災学術連携委員会と防災学術連携体の連絡会には，斎藤と松田達生地質災害委員長が出席する.

5．総会，理事会議事確認

6．チバニアンに関して，サイエンスの立場から会長がコメントを出したことを確認した.

Ⅱ　報告事項

1．運営財政部会：総務委員会（緒方・西）

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞

1）青少年のための科学の祭典2018（日本科学技術振興財団）の後援依頼を承諾した.
2）阿蘇学会（理事長谷口功）設立総会への出席（松田副会長）の礼状
3）石灰石鉱業協会より役員交代のご挨拶，会長：不死原正文氏
4）富山大学都市デザイン学部開設の挨拶，地球システム科学科もこの学部となった.
5）住友財団2018年度“環境研究助成”および“基礎科学研究助成”の募集．〆切6/7→News誌，geo-flashに掲載済み

＜会員＞

1．逝去者
徳永重元名誉会員（2018/05/08）

2．2018年4月末日会員数
賛助：28，名誉：55，正会員：3514（正会員：3394，正（院割）会員：116，正（学部割）会員：4）合計 3597（昨年比-58）

＜会計＞

・2017年度会計監査を5/15に行った．事前に会計士に内容確認をし，受けたアドバイスを決算及び予算案に反映させた.

3．広報部会：広報委員会（坂口・小宮・内藤）

・銀座プロムナードギャラリーでフォトコン写真展を開催（4/28～5/12）

4．学術研究部会（岡田・山田）

（1）行事委員会（岡田）
・札幌大会の発表募集を開始した．6/13締切．プログラム構成は6/16に実施.

（2）国際交流委員会（井龍）：とくになし.

（3）JIS，標準担当（中澤）：とくになし.

5．編集出版部会（中澤・田村・小宮）

（1）地質学雑誌編集委員会　（山路編集委員長，中澤担当）
・125周年特集号4月号発刊済み，5月号印刷中

（2）アイランドアーク編集委員会　（田村）
・Executive Editor 交代　板木→田村亨（産総研）
・投稿状況報告
・受理率　2016年　52%→　2017年　45%
・IFは7月に発表予定

（3）企画出版委員会（小宮）
・子どもゆめ基金の助成金額は8,195,012円に確定し，5/15に残金が入金になった．制作

委託費，その他費用については，助成金額で賄え，決算も終了．今後3年間広報活動の義務があるので進めていく．普及活動をするためのポスター，パンフレット等の配布資料請求書のダウンロード方法（Website）について，わかりやすく案内する．

6．社会貢献部会（平田・杉田・廣木・辻森）

・街中ジオ散歩を5/13に実施，参加者31名（うち子ども5名），雨のためコース変更して無事に終了．

7．地質技術者教育委員会（代理：天野）

・JABEEの総会開催案内（5/29）についてはとりあえず欠席の返事をした．

8．ジオパーク支援委員会（平田）

・5/19　夕方　ミニシンポジウム開催

・5/20　新規申請のプレゼンテーション JpGUセッション

・今回のJGCにおいて，新規の審査が2件予定されている．

9．地学オリンピック支援委員会（平田）

・国際大会の準備中．

10．県の石支援委員会（辻森）：とくになし．

2018年6月16日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会長（代表理事）渡部芳夫

署名人 執行理事　斎藤 眞

2018年度第1回執行理事会議事録

期日：2018年6月16日（土）　13:00～17:00

場所：千代田寿ビル会議室（10階-1）

出席者：松田会長　佐々木副会長　平田副会長　齋藤常務理事　安藤　ウォリス　緒方　岡田（15時以降？）　小宮　田村　中澤　西　廣木

前年度執行理事：杉田　内藤　オブザーバー　板木，前IAR事務局（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：磯崎　大藤　坂口　辻森　星，前年度執行理事：山田　渡部

＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者13名，委任状5名，合計18名の出席．

＊前回議事録の承認

Ⅰ　審議事項

1．各部会，委員会で今期へ引き継ぐべきこと，それぞれ，現状や課題を検討した．

2．「チャレンジ地球」―小学生のための地学オリンピックを実施する件

資料をもとに検討し，日本地質学会（地学オリンピック支援委員会）主催として行うことを承認．費用が発生した場合には学会として拠出する．筑波山ジオパークからの後援も打診してもらうことを提案．子どもゆめ基金web教材およびハンドブックの利用も推進する．

3．非会員年会発表希望者への会費の特例措置について（提案　小宮）

関連して検討すべき事柄も多くあるので，運営財政部会＋提案者（小宮）+副会長で実務的に検討を進めることとした．提案を実行する場合には次年度になるが，その場合は12月理事会で決定する必要があるので，次回執行理事会で検討状況を報告する．

4．地質学雑誌編集委員の更新について

委員一覧（新旧交代者）を確認し，次回理事会での承認を受けるまでは暫定委員とする．

5．専任のIARの編集者を雇ってほしいこと（Island Arc編集委員会：田村）

受理直前原稿の体裁を揃える編集作業支援者雇用の要望を田村委員長が提案．田村委員長および板木前編集事務局長から現状の説明を受け，本来的には出版社がやるべきこと，最終的には編集長が責任を持つこと，著者に修正要求すべき，などの意見を交わした．提案のように学会が専門スタッフを雇用することは現実的ではなく，必要があれば編集委員会として論文単位でサポートを依頼する，費用は学会が年間20万円を限度として支出することを了承した．なお，CSS（体裁見本）を早急にまとめること，Wiley編集担当者と詳細を交渉し，その状況を随時執行理事会に情報提供することを編集委員会に要望した．

6．2018年度の地学オリンピックへの協賛金は，会計状況を考慮し，例年より10万円減額し20万円を（1口5万円，4口）拠出することとした．

7．チバニアン問題への対応について．

先の理事会で会長預かりとした学会としての対応について，会長から学会としての学術的コメント（文案は学術研究部会に依頼）をWebsite等に掲載する旨の提案があり，これを了承した．

Ⅱ　報告事項

1．全体的報告

1）地質学雑誌のあり方についてのアンケート（タスクフォース委員会）は6月号のNews誌，HP等に掲載し，geo-flashで回答の呼びかけする．期日は9月末．

2）京都大学防災研究所の国際共同利用・共同研究拠点認定の推薦に関する要望書提出について，防災研究所からの正式な要請を受け，理事会決定通り文科大臣あての要望文書を送付した．

3）一家に1枚ポスターの募集について，締め切りは6月21日（木）17時厳守．応募案：県の石，モホ面

4）防災学術連携体関係報告

・6/5開催の防災学術連携体総会に連携委員の松田達生地質災害委員長が出席．同斎藤常務理事は欠席．これまであった連携委員の任期の上限は撤廃された

・第１回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」（6/5開催）には，松田，斎藤の両連携委員が出席し，地質学会の防災に資する活動の紹介として，斎藤が「ボクたちの”足もと"から地球のことを知ろう」を紹介．

・防災推進国民大会2018（10/13-14，東京ビックサイトそなエリア（東京臨海広域防災公園））にプレゼンブース「タイトル：防災への第一歩：子どもが学ぶ地球のこと」を申し込んだ．関東支部などにも協力を要請する．

5）名誉会員，50年会員，各賞受賞者等への通知・案内状を送付した．

2．運営財政部会：総務委員会（緒方・西）

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞

1）平成31年度文部科学大臣表彰科学技術賞，若手科学者賞推薦依頼:特に女性，海外を拠点に研究活動を行っているもの（締め切7/25，学会締め切7/13）詳細は文科のHP参照.→　News誌，HP，geo-flashに掲載

2）女性科学者に明るい未来をの会より2018年度「第39回猿橋賞」受賞候補者の推薦依頼（11/30〆切）→　News誌，HP，geo-flashに掲載

3）東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の公募（10/10〆切，学会〆切8/31）→HP，geo-flash，News誌に掲載

4）新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館より企画展示「ジオパークのミュウジアム展」（7/7-8/31）の後援依頼を承諾．

5）朝日新聞社主催の第16回高校生科学技術チャレンジ（JSEC2018）の後援依頼を承諾．

・高校生技術チャレンジJSEC2017の実施報告：応募件数　174件　国内ファイナリスト6件13名を国際大会（USAピッツバーグ）に派遣，結果：グランドアワード2等1件，4等4件，スペシャルアワード゛アメリカ数学会賞1件

6）第54回アイソトープ・放射線研究発表会（共催）のプログラムが届いた．

7）千葉県職員（地質職）の採用選考案内（応募受付6/1-6/21）→HP，geo-flashに掲載

8）三浦半島活断層調査会：城ケ島観察会（5/20後援）の実施報告，参加者46名+スタッフ14名．

9）東京大学海洋研究所より，学術研究船「白鳳丸」の平成31年度実施の研究航海に参加して実施する小規模研究募集（期限9/9），および,東北海洋生態系調査研究船「新青丸」共同利用の公募（期限9/9）→HP，geo-flashに掲載

＜会員＞

1．今月の入会者（79名）

正会員（22名），正（院生割引）会員（55名），正（学部割引）会員（2名）

2．今月の退会者（正会員2名）

石田　克，五十公野裕也

3．逝去者（正会員2名）

正会員（2名）:高橋有三（2018年3月31日），金森邦夫（2018年4月13日）

4．2018年3月末日会員数

賛助：28，名誉：57，正会員：3511（正会員：3391，正（院割）会員：116，正（学部割）会員：4）合計3596（昨年比　-69）
＜会計＞
・科研費の実地検査が8月～10月の間にある予定.
・地学オリンピックの協賛団体依頼，協賛金1口5万円，例年6口30万（予算化済み）．2018年度は20万拠出する.
3．広報部会：広報委員会（坂口・小宮）
1）一家に1枚ポスターの提案については，委員会で準備中
2）ジオルジュの発行について：ジオルジュ2018年前期号は発行済み，後期号も取材・編集作業進行中．前期号のフリーペーパー化による効果を検証の必要はあるが，とりあえず後期号を作ることは了承し，来年度のジオルジュ発行については9月の理事会で再審議する．フリーペーパー化や印刷費削減に向けた取り組みについても部会・委員会として取り組む.
3）今後の広報部会活動として広報戦略の検討，英文Websiteの充実など
4．学術研究部会（磯崎・ウォリス・岡田・辻森）
（1）行事委員会（岡田）
・札幌大会関係：6/16に行事委員会を開催．発表演題申込み（シンポジウム含む）600件，昨年より50件ほど多い.
・2018年札幌大会のプログラム作成作業の報告．ポスター講演263件，口頭講演364件，小さなES 応募は20件を予定
・コアタイムの時間設定（ポスター 2件申込者への対応）の検討
・発表件数に応じた招待講演者枠の増員についての検討（来年度以降）
・国際シンポジウム（9/6午前）後の昼食，半日ツアーの計画・対応をLOCにも協力依頼
・国際シンポジウム招待講演者への対応についてとくに空港での送迎，お土産として「Geology of Japan」を各学会に贈呈することとした.
（2）国際交流委員会（ウォリス）
・125周年記念シンポジウムの講演者について交流学会からの演題が出揃った.
・国際シンポジウム招待者への対応：上記のように国際交流委が行事委員会と相談しながら進める.
（3）JIS，標準担当（中澤）
・審議会があり作業を進めている.
（4）大型研究計画提案（小宮）
・札幌大会の夜間小集会で，大型研究推進提案について検討・情報交換を進める.
5．編集版部会（大藤・田村）
（1）地質学雑誌編集委員会　（大藤編集委員長，中澤副委員長）
1）編集状況報告（6月15日現在）
・2018年投稿論文：51編［内訳］総説12（和文12）・論説24（和文22・英文2）・ノート（和文1）・報告7（和文5，英文2）・巡検案内7査読中：42，受理済み：26（うち特集15）
・124巻5月号（通常号）：論説3，報告1，講座1（64ページ，6/4発送）
・124巻6月号（巡検案内書+通常原稿）：札幌大会巡検D, F, Gコース＋通常原稿（論説2）；約85ページ，校正中）
2）125周年記念特集号状況（掲載予定順．2018年3月改）
3）編集委員会新体制発足→議案4項を参照
（委員長）大藤　茂（副委員長）岩森　光・中澤　努　で5月19日より暫定的に運用を開始した．その他，編集委員会メンバーについては別紙参照．新体制については，9月理事会にて正式承認をとる.
（2）アイランドアーク編集委員会　（田村）
1）編集・特集号・投稿状況等の報告：編集作業分担（Editors, Executive editors）について状況報告があった．受理－Early View－Issue掲載の所要期間について質疑した.
（3）企画出版委員会（小宮）
・子どもゆめ基金web教材およびハンドブックの記載ミスが報告されているので，7月一杯に情報を集めて修正する予定.
6．社会貢献部会（星・廣木・中澤）
・街中ジオ散歩共催の川崎市教育委員会に報告書を提出した.
・来年度の街中ジオ散歩イベントは5月12日（日）羽村市での開催を準備中であることが前任者の杉田理事から報告があった.
7．地質技術者教育委員会
・前期は故山本副会長の担当であったので，委員会活動の現状を確認した.
8．ジオパーク支援委員会（平田）
・5/19ミニシンポジウム「日本地質学会のジオパークへの学術的貢献」を開催，各ジオパークから30人ほどの参加があり，3件の講演と意見交換をおこなった．札幌大会ではランチョンを開催し，ミニシンポジウムの内容をうけて来年の連合大会での関連学会との共催セッションについて検討をする.
・現在のJGC委員は学会からの代表委員ではないため，支援員会委員でもあるJGC委員からJGCの情報等を，理事会に提供してもらうよう依頼する.
9．地学オリンピック支援委員会（星）
・「チャレンジ地球」―小学生のための地学オリンピックを実施する件←議案2項参照.
・今年度において表記を試行的に実施することを検討，執行理事会の了承を得たい.
・第12回国際地学オリンピック・タイ大会（2018/8/8～8/17）に参加する日本代表4名決定済み.
10．県の石支援委員会（辻森）：とくになし
11．125周年記念実行委員会（矢島）
・6/14委員会を開催　式典のまとめ：5/18記念式典出席者174名（うち来賓40名），祝賀会出席者101名．式典関係の報告記事は8月号に掲載予定，詳細は9月の理事会に報告予定
・ジオルジュ（英語版）を，海外の学会に出席する際のお土産にしてもらうためにgeo-flash等で宣伝する，また国際シンポジウム会場で配布する.
・国際シンポジウムの要旨（和英）のパンフレットを作成して，一般来場者にも配布予定.

2018年8月6日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）松田博貴
署名人 執行理事　斎藤 眞

2018年度第2回執行理事会議事録

期日：2018年8月6日（月）　13:00～17：30
場所：地質学会事務局
出席者：松田会長　佐々木副会長　平田副会長　齋藤常務　安藤　磯崎　緒方　岡田　坂口　中澤　廣木　（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：ウォリス　大藤　小宮　田村　辻森　西　星
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者11名，委任状7名，合計18名の出席.
＊前回議事録の承認

Ⅰ　審議事項
1．巡検時緊急対応用のレンタカー使用マニュアル：札幌大会において，緊急時用にということでレンタカーの使用申請があったため，マニュアルを作成し案内者に方針を示すこととした.
2．啓林館発行「地学改訂版」教科書の点検について：日本地質学会から意見書を送付した経緯もあることから，改訂版が出版されたことに対し，出版社と文部科学省へ礼状を送付することとした.
3．札幌大会での各種会議の設定について：支部長連絡会議（平田副会長担当），専門部会長連絡委員会（磯崎学術研究部会長）をランチョンに設定し，支部長，専門部会長に開催通知を出す.
4．9月理事会の議案
1）地質学会各種委員会の再編・統合について
2）地質学会主導の大型研究マスタープランについて
3）その他

Ⅱ　報告事項
1．全体的報告
1）防災推進国民大会（10/13-14:東京ビッグサイト）の説明会が7/17に行われ，斎藤常務が出席した（回覧資料）．室内でのブースで，展示・啓発活動を行うので．関東支部に協力を依頼する.
2）科学研究費の実地検査と意見交換会が9月18日（火），10：00-12：00に実施される．学振からは2～3名の職員が来訪す

る．過去5年間の保存書類の確認と意見交換．斎藤，緒方が出席予定．
3）地球惑星科学連合の固体地球科学セクションより「夢ロードマップ」の改訂に伴う，固体地球科学セクションの改訂案に対する意見募集．特に意見なし．
2．運営財政部会：総務委員会（緒方・西）
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
1）日本ゼオライト学会より，第34回ゼオライト研究発表会の協賛依頼を承諾した．
2）原子力総合シンポジウム2018（ 学術会議総合工学委員会原子力安全に関する分科会主催）の共催依頼を承諾．
3）沖縄協会より沖縄研究奨励賞の公募，募集期間7/15-9/30，沖縄を対象とした優れた研究，50歳未満，国籍問わず→News，geo-flash，HPに掲載
4）朝日新聞文化財団より朝日賞（自然科学部門）の公募，〆切8/24 → News，geo-flash，HPに掲載
5）三井物産環境基金より2018年度環境活動に対する助成金の説明会開催，8/27 14時～16時半
6）東北アジア研究センター公開講演会『玉（Gyoku）― その起源と東北アジア先史の「石」文化』（後援）の開催報告（辻森理事）：参加者一般市民89名で，盛会であった．
7）千葉県教育庁より県立博物館職員募集，うち地質系1名 募集期間7/6-7/26→News，geo-flash，HPに掲載
8）賛助会員役員交代挨拶：石油資源開発㈱（会長渡辺修，社長岡田秀一），㈱パスコ（会長小松良平，社長島村秀樹）
9）学会役員交代挨拶：（公社）土木学会（会長小林潔司），（一社）日本原子力学会駒野康男）
＜会員＞
1．今月の入会者（18名）
正会員（11名）：小原久典，KO Hyung Sik，佐久間幹，CHO Hyeh Goo，松田 寛，Chatterrjee Sayantani，阿部彩子，貝羽哲郎，前原恒祐，磯貝晃一，金子尚人
正（院生割引）会員（6名）：COSTA Jovita，亀田夏帆，坂口イロナ，中野敬太，小椋千尋，安藤瑞帆
正（学部割引）会員（1名）：菅野萌子
2．今月の退会者（正会員7名）
柳井修一，平中伸英，関 笙，吉倉紳一，貞本和志，梅村祐介，中西啓介
3．逝去者（正会員1名）
青木 憲（2018/2/27）
4．2018年7月末日会員数
賛助：28，名誉：57，正会員：3574（正会員：3403，正（院割）会員：164，正（学部割）会員：7 ）合計3659（昨年比 -79）
＜会計＞
・特になし
3．広報部会：広報委員会（坂口・小宮）
・一家に1枚ポスター企画「県の石」，「モホ面」の2件が書類審査を通り，次のプレゼン審査の資料を提出した．プレゼンの日程は，現時点では未定．
・ジオルジュ2018後期号は編集作業中，アポイ・ジオパークを取材中．赤字解消（収入確保・広告・残部販売・記事個別販売等）への努力について当初目標想定していた「支出20万円程度減額」の計画が提示され，当面，この計画に沿って支出を減額しながら，出版を継続することとなった．
4．学術研究部会（磯崎・ウォリス・岡田・辻森）
（1）行事委員会（岡田）
・札幌大会関係：参加申し込みは8月10日が締め切り，現時点ではCおよびIコースはあと1～2名，その他は実施可能の状況である．
・レンタカー使用マニュアル（巡検時の緊急対応用）→議案
・小さなESのつどい（9/7）：ポスターは展示するが，審査はデジタルファイルで行う．平日のため当日参加は15校中4校の予定．
・ポスター会場は9会場（2F, 3F）となり，書籍販売，展示ブースは各展示会場に分散して配置する．アウトリーチ用ポスター掲示場所の隔離設置はできない．
・2019年度 山口大会：日程9月23日（月・祝日）～25日（水），26日（木）～巡検
実行委員長：脇田浩二．事務局：坂口有人
9/21-22（土・日）日本鉱物科学会 九州大学（福岡）開催予定との連続性を考慮する
（2）国際交流委員会（ウォリス）
・国際シンポジウム（9/6午前開催）の各国代表者来札予定（9/5までに）が概ね内定．
・MOUの更新をこの大会中に行う（ロンドン地質学会，タイ地質学会）．両国の準備が整えば表彰式の前に交換を行う．
・表彰式・シンポジウムでの各学会のご挨拶：5学会（韓国，台湾，タイ，モンゴル，ロンドン）の代表の方々に，表彰式の前にご挨拶をいただく時間を設ける．
・交流学会との懇談 意見交換会：懇親会終了後では時間も遅いので，6日の昼食会を兼ねての実施が良いのではないか．
・ミニツアー及び昼食会の件（9/6午後）
昼食会参加者：招待客10人，松田会長，平田副会長，磯崎，ウォリス，天野，矢島，竹下
会場：北大前のレストラン「えりも亭」
ミニツアーは検討中，3－4時間しかないので1,2か所程度．
・千歳空港のお迎えの件：日本に滞在したことがある方も数人いらっしゃるので，ほとんどの方は，必要ないと思われる．どうしても必要という方がいれば対応する．
（3）JIS，標準担当（中澤）
・GTSの年代日本語表記の統一について検討中．
5．編集出版部会（大藤・田村）
（1）地質学雑誌編集委員会 （大藤編集委員長）
1）編集状況報告（7月31日現在）
・2018年投稿論文：56編［内訳］総説13（和文13）・論説28（和文26・英文2）・ノート1（和文1）・報告7（和文5，英文2）・巡検案内7 査読中：44，受理済み：24（うち特集号16）
・124巻7月号：札幌大会巡検案内書B，Eコース＋通常原稿（論説2,報告1）（74ページ）
・124巻8月号：125周年特集号「日本の火成岩研究の進展と展望」4編，札幌大会巡検案内書2編（Cコース，実習プログラム）（計約100ページ）
2）125周年記念特集号状況（2018年7月27日現在）
札幌大会巡検案内書（8月号）の掲載の都合上，予定より遅れているが着実に出版されている．2019年1月の会長年頭挨拶や2019年5月の総会等で総括できるように進める．
（2）アイランドアーク編集委員会 （田村）
1）出版状況報告
資料により出版状況を確認した．
2）6月の執行理事会で審議したことのその後については，田村理事が今回欠席されたので次回に報告してもらう．
（3）企画出版委員会（小宮）
1）Web教材の間違いについては利用者や理事から指摘をうけ，夏休み中の利用者も多いことを踏まえ近々に修正をすることとした．
2）地質リーフレット たんけんシリーズ 城ケ島，屋久島，箱根火山たんけんマップの残部が僅少になり，再版にあたって著者に修正の有無について確認中．城ケ島については，今年度予算で再版予定であったが，代表者の蟹江会員から全面改訂の希望があり，これについては改めて企画書にて提案するよう伝えたが，改訂企画案が提案されたとしてもすぐに対応は難しいと思われるので，需要からみてこれまでの版を増刷することとした．
＊8/7に城ケ島の改訂について，蟹江会員が来所され事務局が説明を受けた．現在出版されているものとは出版の趣旨，内容および対象読者層も異なるとのことから，改めて別物として出版企画案を提出すべきとして，まとまり次第新規提案をするとのことであった．
6．社会貢献部会（星・廣木・中澤）
・「次期高等学校学習指導要領案に対するパブリックコメント」の反映結果について，廣木理事より，意見は反映されなかったとの報告があった．今後も，地学教育の動向について注視していくとした．
7．地質技術者教育委員会
・JABEE事務局より「国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ，第12回」 9/15芝浦工大の開催，募集案内→竹内委員委に回送

8．ジオパーク支援委員会（平田）
・地震火山サマースクール（地質学会からも共催負担金20万円）の2019年度開催地が京都府宮津市（NPO法人地球デザインスクール提案）に決定
・2018年　伊豆大島（35名参加予定）で開催，天候の都合で予定を縮めて1日のみ実施.
9．地学オリンピック支援委員会（星）
1）出題委員の推薦：地学オリンピック日本委員会の要請により出題委員を1名推薦した.
2）小学生のための地学オリンピック―チャレンジ地球―（日本地質学会主催）の募集を開始した.
・クイズ30：東京会場9/17，つくば会場10/7 募集人員　各30名
・ジオパーク探検：10/8　筑波山地域ジオパーク，クイズ参加者対象，保護者同伴募集
・つくば山地域ジオパーク推進協議会に対し，支援委員長名で講演を依頼した.
3）IGEO（国際地学オリンピックの元締め機関）の4年に一度の会議がブラジルで開催され，久田会員が日本委員会から出席した．4年後の2022年には日本での開催が決定した．地学教育学会がメインの学会として対応することになると思うが，地質学会および地惑連合にも協力を要請し，また，組織委員等についてもいずれ依頼がある予定.
4）第12回 国際地学オリンピック（タイ大会）
8/8～8/17に開催され，日本からは代表4名，ゲスト2名が参加した.
10. 県の石支援委員会（辻森）
編集の現状については，最近報告をうけていないので，どのような状況であるかについて話題となった．状況確認の必要性と編集，出版には学会として協力を惜しまないことを再確認した.
11. 125周年記念実行委員会（矢島）
・国際シンポジウム（9/6）の会場配布用のパンフレット（英文・和文要旨掲載）を準備中.
・記念式典の報告記事はNews誌8月号に掲載.
12. 2017年度　地質系若手人材動向調査報告（坂口）
・全国20大学地球科学系学科長会議と協力して，全国の主要大学の地質系教室へのアンケート調査を実施し，特に入学者，進学者，就職先等の統計から，地質科学分野の人材動向について把握した．日本地質学会の入会者の動向も考慮しながら検討した．結果はニュース誌に報告する.

2018年9月4日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）松田博貴
署名人 執行理事　斎藤 眞

2018年度第3回執行理事会議事録

期日：2018年9月4日（火）　13:00～14：30
場所：かでる2.7　730研修室
出席者：松田会長　佐々木副会長　平田副会長　齋藤常務理事（遅刻）　安藤　大藤　磯崎　ウォリス　緒方　岡田　小宮　坂口　辻森　中澤　廣木，狩野議長，杉田副議長（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり，カッコ内委任者）：田村　西　星（松田）
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者15名，委任状3名，合計18名の出席.
＊前回議事録を承認

Ⅰ　審議事項
1．理事会議事関連事項および議事確認
2．地質学会各種委員会の再編・統合について：佐々木副会長を中心に，各種委員会活動の実態把握の上で検討していく.
3．地質学会主導の大型研究マスタープランについて：学会での対応の現況について確認し，札幌大会の夜間小集会（9/7）でも関係者で検討する
4．ジオルジュの発行について：広報拡大・出版経費削減策を理事会の審議事項にする.

Ⅱ　報告事項
1．全体的報告
1）古関東深海盆ジオパーク協議会より，千葉セクション申請取り下げ要望に関する資料が会長あてに来信
2）今年度の各賞選考委員として，職責委員の岩森・中澤の現副編集長の2名が漏れていたので，追加する.
2．運営財政部会：総務委員会（緒方・西）
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
1）2019年度笹川科学研究助成の公募（募集9/18-10/16），学術研究部門100万円（院生，35歳未満の任期つき雇用研究者），実践研究部門50万円（博物館，NPOに所属者）←geo-flash，HPに掲載済み
2）山田科学振興財団より留学費助成の募集，2019/4-2020/3までに出発の者，身分，経歴年齢不問，応募期間8/1-10/31 ←geo-flash，HPに掲載済み
3）長野県環境部から環境保全研究所の地形・地質研究職員募集，受付期間8/27-9/21　←geo-flash，HPに掲載済み
4）石油技術協会より平成30年度秋季講演会（11/1，東大））の協賛依頼がありこれを承諾した.
5）兵庫県立博物館より県政150周年記念国際シンポジウム「巨大恐竜，竜脚類の謎に迫る」（12/8開催）の後援依頼を承諾した.
＜会員＞
1）今月の入会者（3名）
正会員（2名）：東　豊一，小野紗也香
正（学部割引）会員（1名）：津久井脩平
2）今月の退会者　　なし
3）今月の逝去者（名誉会員　1名）
小林英夫（2018年8月14日）
4）2018年7月末日会員数
賛助：28，名誉：56，正会員：3601（正会員：3417，正（院割）会員：176，正（学部割）会員：8）合計3685（昨年比-57）
＜会計＞
1）ジオルジュの来年度の発行に関して，理事会の審議事項とする.
2）巡検の支払いに関して：巡検の経費余剰を参加者に返却したいとの希望があったが，巡検参加費は最初に設定し，会計に繰り込んで配分するので，それを個別に対処するのは難しい．また，赤字になった場合でも，追加支払いを要求することはできない．巡検に関しては，事務経費等も掛かっていることなどから，完全に独立採算というわけでもない．以上のような理由から，従来通り巡検費用は赤字，黒字を問わず，本部会計に任せてもらうこととした.
3）年会会場費確定：当初予算から総額は150万円アップの見込（総額250万に達する可能性）．今後の大会開催に際しては，事前の見積もりを慎重に行うよう注意する.
3．広報部会：広報委員会（坂口・小宮）
・一家に1枚ポスター企画は2件とも書類審査を通り，現在Webにて一般アンケート（投票）実施中，プレゼンは9月20日に行われる.
・9/4　第125年学術（札幌）大会のプレスリリースを行った.
4．学術研究部会（磯崎・ウォリス・岡田・辻森）
（1）行事委員会（岡田）
・台風21号に備えた対応を検討し，発表者が学生の場合には昨年同様の措置をする．大会行事に関する情報は，大会HP，ジオフラッシュの確認を会員に広報した.
（2）国際交流委員会（ウォリス）
・国際シンポジウム（MOU締結5学会：英・タイ・韓国・モンゴル・台湾）の招待者5名（家族3名），来賓（韓国副会長），国際賞1名（Coffin氏）の方々と連絡を取り合った.
・シンポジウム（9/6）後の昼食会での交流・情報交換を行う
（3）JIS，標準担当（中澤）：とくになし.
5．編集出版部会（大藤・田村）
（1）地質学雑誌編集委員会　（大藤編集委員長）
1）編集状況報告
2）125周年記念特集号状況（2018年8月現在）
3）編集委員会委員一覧の確認（理事会承認事項）

（2）アイランドアーク編集委員会（板木氏：前Executive Editor；編集長（武藤，田村）代理）
1）出版状況報告，その他」
Wiley側との打ち合わせ報告
・プロモーション活動について（Wileyからの提案）：Open AccessによるIF向上策など
・編集作業工程・分担，査読過程の効率・短縮化（特に論文スタイルチェック）
・英文Abstractの和訳（日本人著者がいない場合は非掲載，2018年より）
・Accepted manuscriptのOnline掲載について
2）編集作業経費（学会負担）について
作業内容の検討中であり，軽減できる可能性はあるが，その場合には経費が必要である．
（3）企画出版委員会（小宮）
6．社会貢献部会（星・廣木・中澤）
・第19回地震火山こどもサマースクールｉｎ伊豆大島ジオパーク報告
開催日：2018年8月7日（火）台風13号接近のためプログラムを１日予定変更して実施した．
場所：伊豆大島ジオパーク
参加者：34名（小学生21名　中学生8名高校生5名）
第20回（2019年）は京都で開催予定
7．地質技術者教育委員会：とくになし
8．地質災害委員会（松田達生，代理　斉藤）
・日本学術会議と防災学術連携体による西日本豪雨に関する緊急報告会の開催（9月10日）．会員に呼びかけ，西日本支部の越智会員からの発表を申し込むこととした．演題：花崗岩の風化特性とそれに応じた砂防・治山のあり方について～8.20広島豪雨災害と西日本豪雨災害の現場から～
・緊急調査（越智会員）についての問い合わせの件
9．ジオパーク支援委員会（平田）
・125年学術大会（札幌）にて，9月7日にランチョンを開催予定．各ジオパーク間の連携について検討する．
10．地学オリンピック支援委員会（星，平田代理）
・第12回国際地学オリンピック・タイ大会報告
開催日：2018年8月8日～17日，38か国・地域，139人参加）
日本代表は金メダル3，銀メダル1を獲得
11．県の石支援委員会（辻森，松田会長）
・8/24に松田会長が仙台に出向き，井龍委員長と県の石の出版の今後について話し合った．標本・試料写真撮影作業工程の再検討を要する．
12．125周年記念実委員会（矢島）
・記念式典等について理事会で報告をする．

2018年10月20日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会　長（代表理事）松田博貴
署名人 執行理事　斎藤 眞

CALENDAR

2018.10～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，（共）共催，（後）後援，（協）協賛．

2018年

10月　October

○科学的特性マップに関する対話型全国説明会
主催：経済産業省資源エネルギー庁，NUMO
10月20日（土）～12月18日（火）
場所：八代市，釜石市，岐阜市，熊本市，綾部市，豊岡市，下関市，四万十市，能代市，京丹後市，豊橋市，浜松市，平塚市
プログラム：地層処分の説明，テーブルでのグループ質疑
https://www.numo.or.jp/taiwa/2018/

○2018年度秋期地質調査研修
主催：産業技術総合研究所
10月29日（月）～11月2日（金）
場所：島根県出雲市長尾鼻周辺（小伊豆海岸）
https://www.gsj.jp/geobank/geotraining.html

11月　November

（協）石油技術協会平成30年度秋季講演会
「若手技術者－何を考え何を目指す」
11月1日（木）13:00～17:40
場所：東京大学小柴ホール
http://www.japt.org

○東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会
「海底堆積物から地震履歴をどこまで読み取れるのか」
11月13日（火）～14日（水）
場所：東京大学大気海洋研究所（柏キャンパス）
http://www.aori.u-tokyo.ac.jp

○IGCP608「白亜紀アジアー西太平洋生態系」第6回国際研究集会
11月15日（木）～16日（金）（研究集会：タイ・コンケーン）
11月12日（月）～14日（水）（プレ巡検：コラート高原のジュラ系－白亜系Khorat層群と恐竜化石群）
http://igcp608.sci.ibaraki.ac.jp/

★関東支部：伊豆大島巡検
11月22日（木）～24日（土），2泊3日（船中1泊）雨天決行
申込期間：9月20日（木）～11月10日（土）
http://kanto.geosociety.jp/

○第216回地質汚染イブニングセミナー
11月29日（木）18:30～20:30
場所：北とぴあ901会議室
講師：シティユーワ法律事務所　弁護士　佐藤恭一
テーマ：我が国のおける自然由来土壌汚染の規則－自然由来土壌汚染国家賠償訴訟の報告
http://www.npo-geopol.or.jp

○平成30年度 東濃地科学センター地層科学研究 情報・意見交換会
11月29日（木）13:30～16:45
場所：瑞浪市地域交流センター「ときわ」
定員：約130名，入場無料
参加申込締切：11月13日（火）先着順
https://www.jaea.go.jp/04/tono/topics/topics1810_1/index.html

○土岐地球年代学研究所見学会
11月30日（金）9:00～10:45
場所：土岐地球年代学研究所
定員：30名，入場無料
参加申込締切：11月13日（火）先着順
https://www.jaea.go.jp/04/tono/topics/topics1810_1/index.html

12月　December

○第29回GSJシンポ地圏資源環境研究部門研究成果報告会
「粘土・粘土鉱物：枯渇の機器にある貴重な国内資源」
12月6日（木）13:30 ～ 17:35
場所：秋葉原ダイビル
https://unit.aist.go.jp/georesenv/

○国際シンポジウムMISASA VII「サンプルリターンとアストロバイオロジー」
主催：岡山大学惑星物質研究所
12月19日（水）～21日（金）
場所：米子コンベンションセンター BiG SHiP（鳥取県米子市）
https://sympo.misasa.okayama-u.ac.jp/misasa_vii/

○地質学史懇話会
12月23日（日）13:30 ～ 17:00
場所：北とぴあ8階806号室（JR京浜東北線王子駅下車3分）
演者：長田敏明氏
問い合わせ：矢島道子<pxi02070@nifty.com>

2019年

○International Conference on Geoscience for Society (GeoSoc)
2019年3月14日（木）～ 17日（日）
場所：バングラデッシュ・ダッカ市
https://www.data-box.jp/pdir/7085ba17d18d49959128fd842853976a

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，２冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．
現金書留または郵便振替　00140－8－28067
40号以前の論集については，一部在庫がございます．院生・学生４割引，正会員２割引で販売しております．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．No. 40以降の論集：院生・学生のみ２割引

地 質 学 論 集

第 40 号　中央構造線のネオテクトニクス—その意義と問題点—．岡田篤正ほか編，250pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒350円
第 41 号　中部九州後期新生代の地溝．長谷義隆ほか編，192pp., 1993年６月刊，会員頒価3,100円，〒300円
第 42 号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357pp., 1993年４月刊，会員頒価3,100円，〒350円
第 43 号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177pp., 1994年４月刊，会員頒価2,000円，〒350円
第 44 号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒350円
第 45 号　~~シーケンス層序学—新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，~~**（売り切れました）**
第 46 号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162pp., 1996年９月刊，会員頒価 1,900円，〒300円
第 47 号　日高地殻—マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323pp., 1997年４月刊，会員頒価3,000円，〒350円
第 48 号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia（IGCP350）Contributions from Japan—　岡田博有ほか編，188pp.，1997年６月刊，会員頒価 2,100円，〒350円
第 49 号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232pp.，1998年３月刊，会員頒価 2,500円，〒350円
第 50 号　~~構造地質　特別号—21世紀の構造地質学にむけて—．狩野謙一ほか編，~~**（売り切れました）**
第 51 号　地震と地盤災害—1995年兵庫県南部地震の教訓—．岡田博有ほか編，162pp.，1998年３月刊，会員頒価3,000円，〒350円
第 52 号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316pp.，カラー 10pp.，1999年９月刊，会員頒価3,000円，〒350円
第 53 号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401pp.，1999年11月刊，会員頒価3,900円，〒360円
第 54 号　タフォノミーと堆積過程—化石層からの情報解読—小笠原憲四郎ほか編，197pp.，1999年12月刊，会員頒価2,900円，〒350円
第 55 号　~~ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，~~**（売り切れました）**
第 56 号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253pp., 2000年３月刊，会員頒価2,900円，〒350円
第 57 号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240pp., 2000年９月刊，会員頒価2,800円，〒350円
第 58 号　~~地震イベント堆積物—深海底から陸上までのコネクション—藤原　治ほか編，~~**（売り切れました）**
第 59 号　沖積層研究の新展開　井内美郎ほか編，212pp.，2006年５月刊，会員頒価2,400円，〒350円

リーフレットシリーズ
大地の動きを知ろう—地震・活断層・地震災害—　1995年４月発行　会員頒価200円（非会員300円）
大地のいたみを感じよう—地質汚染Geo－Pollutions 1997年２月発行　会員頒価200円（非会員300円）
大地をめぐる水—水環境と地質環境—　2001年５月発行　会員頒価300円（非会員400円）
日本列島と地質環境の長期安定性　2011年発行　会員頒価500円（非会員600円）

地質リーフレットたんけんシリーズ**（同一リーフレットを20部以上購入の場合割引あり）**
１．箱根火山たんけんマップ—今、生きている火山　2007年５月発行　会員頒価300円
２．屋久島地質たんけんマップ—洋上アルプスは不思議な地質がいっぱい—　2009年３月発行　会員頒価300円
３．城ヶ島たんけんマップ—深海から生まれた城ヶ島—　2010年９月発行　会員頒価300円
４．富士山青木ヶ原溶岩のたんけん—樹海にかくされた溶岩の不思議—　2014年３月発行　会員頒価300円
５．長瀞たんけんマップ—荒川が刻んだ地球の窓をのぞいてみよう—　2016年２月発行　会員頒価300円

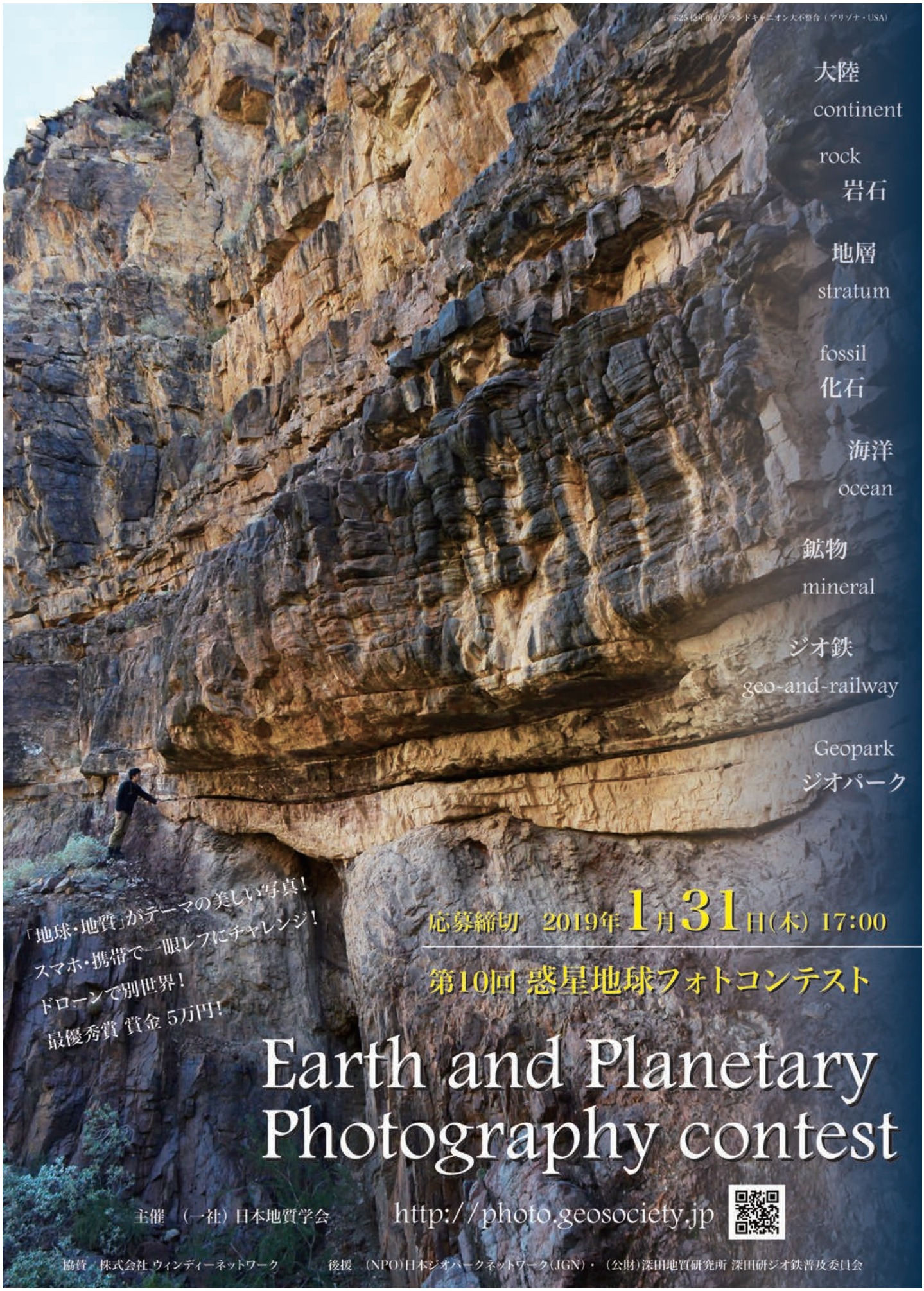
地質リーフレットシリーズ
１．箱根火山　2007年７月発行　会員価格1,000円**（同一リーフレットを20部以上購入の場合割引あり）**

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）１枚200円（非会員300円）

電子書籍シリーズ
地学を楽しく！：ジオパーク・ジオツアー・地学オリンピック　　2013年12月発行　［Kindle版/PDF版］　定価1,380円

講演要旨集ほか
第118年見学旅行案内書（2011年水戸）　　会員頒価2,800円，〒500円
第117年学術大会講演要旨（2010年富山）　会員頒価4,000円，〒500円
第117年見学旅行案内書（2010年富山）　　会員頒価2,800円，〒500円
第116年見学旅行案内書（2009年岡山）　　会員頒価2,800円，〒500円
第115年見学旅行案内書（2008年秋田）　　会員頒価2,500円，〒500円
※このほか，大会講演要旨は，2002年新潟，2003年静岡，2004年千葉，2006年高知，2007年札幌，見学旅行案内書は，2004年千葉，2005年京都に残部があります．

フィールドノート：学会オリジナル．12×19cm．ハードカバー．レインガード使用　会員頒価１冊500円．
クリアファイル：学会創立125周年記念オリジナル．A4対応両面カラー．3枚１セット500円．



©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp